

**企業会計基準委員会と国際会計基準審議会との
第14回共同会議の概要**

1. 日時

- 2011年10月31日(月)及び11月1日(火)
- ロンドン(英国)

2. IASBからの参加者

- Hoogervorst 議長、Mackintosh 副議長、Cooper 理事、鶯地理事
- Upton ディレクター、Texeira シニアディレクター、Stewart ディレクター、Lloyd シニアディレクター、その他スタッフ

3. ASBJからの参加者

- 西川委員長、加藤副委員長、新井副委員長、小賀坂主席研究員、他研究員。
- 上記のほか、都委員、野村委員、関根委員等もテレビ会議で東京から参加。

4. 全体のスケジュール

日時	議題	主な内容
10月30日 午前	ASBJ アップデート	● 最近の概況
	IASB アップデート	● 各プロジェクトの状況
	アジェンダ協議	● IASB 意見募集に対する暫定的な見解
午後	金融商品(減損)	● 3つの種類のバケット ● バケット間の移転、他
	収益認識	● 一定の期間にわたり充足される履行義務の要件、他
	IFRSの解釈上の問題	● IFRSの適用上・解釈上の課題
11月1日 午後	リース	● 貸手の会計処理、他
	投資企業	● IASB 公開草案に対する暫定的な見解

5. 各セッションの概要**(1) ASBJ アップデート**

- 次の項目を中心に ASBJ における最近の状況について説明し、意見交換を実施。
 - IFRS を取り巻く最近の状況
 - IFRS の適用に関する日本の関係者の懸念
 - 東京合意の達成状況
 - ASBJ と IASB の今後の関係の強化

(2) IASB アップデート

- IASB の作業計画の概要と各プロジェクトの状況について説明があり、意見交換を実施。

(3) アジェンダ協議

- IASB が7月に公表した「アジェンダ協議 2011 - 意見募集」に対する現時点での暫定的な見解について説明し、意見交換を実施。
 - 全体的な見解
 - ◇ 「既存の IFRS の維持管理」の重視（安定的なプラットフォーム構築の必要性、適用後レビューの範囲の拡大と充実、ガイダンスの充実）
 - ◇ 概念フレームワークの改善
 - ◇ 開示フレームワークの確立、全体的な開示内容及び量の見直し
 - 個々のアジェンダ項目に関する主な見解
 - ◇ OCI とリサイクリング、公正価値測定の適用範囲、開発費の資産計上、のれんの非償却について

(4) 金融商品（減損）

- IASB 及び FASB が検討を進めている金融資産の減損モデルに関して、次の論点ごとに見解を提示し、意見交換を実施。
 - 3つの種類のバケット
 - バケット間の移転
 - 購入貸出金と新規組成の貸出金
 - バケット1の減損測定

(5) 収益認識

- IASB 及び FASB の収益認識のプロジェクトに関する次の論点について、現時点における見解を提示し、意見交換を実施。
 - 一定の期間にわたり充足される履行義務の要件
 - 修正コストベースインプット法と履行義務の結果（outcome）の合理的な測定
 - 回収可能性の表示

(6) IFRS の解釈上の問題

- IFRS の任意適用にあたっての IFRS の解釈上及び実務上の検討課題について、前回共同会議以降の検討状況や質問事項を提示し、意見交換を実施。

(7) リース

- IASB 及び FASB のリースのプロジェクトについて、次の論点に関する ASBJ の見解や関係者の懸念を紹介し、意見交換を実施。

- 貸手の会計処理
- 変動リース料
- その他の論点(オプション、短期リース等)
- 借手の会計処理に関する関係者の懸念

(8) 投資企業

- IASB が 8 月に公表した公開草案「投資企業」における次の論点について、現時点の暫定的な見解を提示し、意見交換を実施。
 - 支配している投資を公正価値で測定すべき場合
 - 投資企業の適格要件
 - 投資企業でない親会社の会計処理

(9) プレスリリース

- 添付参照(11月4日公表)
- 次回の共同会議は、2012年第2四半期の早期に東京で開催する予定。

以上